

地域再生計画

- 1 地域再生計画の申請主体の名称
東京都葛飾区
- 2 地域再生計画の名称
かつしかARTブランド化計画
- 3 地域再生の取組を進めようとする期間
地域再生計画認定の日から平成19年3月まで（3年後に内容等を見直す予定）
- 4 地域再生計画の意義及び目標

葛飾区においては、区民の主体的な文化芸術活動を支援し、多様で豊かな文化を創造発展させる諸条件を整備することにより、心豊かで充実した区民生活と個性的な都市の形成に取り組んでいる。区において、これら区民に対する支援と文化の創造発展の中心的役割を担うのが、財団法人葛飾区文化国際財団である。

これまでの葛飾区文化国際財団の実施事業は、好評を得ているが、公演の開催に多くの予算を配分し、それらを外部の専門家やプロのアーティストに頼ってきた結果、区民の文化芸術活動の把握は十分とは言えなかった。

このため、葛飾文化国際財団に「かつしか文化工房」を設置し、区民が企画する文化芸術の体験講座を開催するとともに、修了者の発表の機会たるアウトリーチ（出前コンサート・出前演劇）や展示会を積極的に実施してきた。さらに、区民参加の文化芸術事業を主体的に企画運営するグループに対して、場所や活動費等の支援をすることで、地域文化を創造するプロのアーティストや文化リーダーの輩出に努めてきた。

今回、これらの取組をさらに推進するため、次代を担う子どもからなる「シンフォニーヒルズ少年少女合唱団」を創設する。区全域から素質のある少年少女を発掘し、一流の音楽家を顧問及び指導者に招くことで、音楽的に充実した純度の高いハイレベルな合唱の創造を目指す。

当合唱団が地域の顔となる芸術文化団体として認識され、区民の間に広く音楽への関心が高まることに伴い、さらなる文化芸術に関する需要と区民参加の気運が期待できる。

当合唱団をはじめ、「かつしか文化工房」の出身者が、区内各所で発表会や区民参加のイベントを開催することで、地域の活性化につながる元気な葛飾区を創る。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

葛飾区内で催される文化芸術イベントは、都心と比較すると非常に少なく、多くの区民は区外に出かけている。

このような中、「シンフォニーヒルズ少年少女合唱団」の公開練習には、区全域から素質のある少年少女を発掘したことや一流の音楽家を顧問及び指導者に招いているとの評判から、団員の家族のみならず、入団を希望する子どもやその家族、活動に注目する方々等、多数の区民が集まっている。

今後、当合唱団が区内の音楽会をはじめ、全日本ジュニアコーラス等の発表会へ参加し、区の芸術団体として認められる活動を行うことで、公開練習に集まる区民はさらに増加することが見込まれる。

そして、各地域には団員を送り込もうとする意欲や当合唱団の応援活動を通じて、さらなる音楽への関心が生じるとともに、文化芸術への参加意識の高まりが期待される。

また、東京都における文化事業の生産誘発効果は、1.88倍と言われているが、区内に音楽事務所等が少ないため、葛飾区文化国際財団が企画する公演事業予算のほとんどは区外に流出している

かつしかARTブランド化計画は、当合唱団の活動から発生した区民の文化芸術に関する需要に応える様々な講座を供給し、これらの講座から輩出したアーティストは、NPO法人等との協働により、区内100箇所余の商店街等でアウトリーチを展開する。各商店街には、近所のアーティストの応援等、普段より100人多い買物客が集まり、その方々が1,000円を使うことで、1商店街あたり10万円、区内で1千万円の消費が発生する。

そして、アウトリーチで好評なアーティストによる地域コンサートや美術展等を500人規模で、年間延10回程度開催する。区外に出かけていた区民がこれらのイベントに集まり、食事や買物等に2,000円を使うことで、区外に流れていた1千万円がさらに区内で消費される。

このようなイベントの規模や回数を徐々に膨らますことで、区内のみならず区外からも多くの人を集め、葛飾の産業に大きな活力を与える。

さらに、公演等イベントの出演者、衣装や道具等、開催に必要なすべてを区内で調達できるようにし、葛飾区文化国際財団が企画する公演事業費1億2千万円を区内へ還元するとともに文化事業の生産誘発効果を爆発的に増加させる。

「シンフォニーヒルズ少年少女合唱団」は、これら地域文化の創造と文化産業の創出に向けた大きな一歩である。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称等

10803 文化芸術による創造のまち支援事業の活用

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

(1) 区民参加の文化芸術講座の企画募集

合唱団の活動による文化芸術への参加意識の高まりにあわせ、区民から文化芸術講座の公募を行う。

(2) 文化芸術講座の実施

区民から提出された文化芸術講座の企画の中から、区民参加の期待ができるものやアウトリーチ（出前コンサート・演劇）につながるものを採用して実施する。

(3) アウトリーチの実施支援

文化芸術講座から輩出したアーティストに対し、区内商店街のイベント等の発表場所や活動費等の支援を行う。

(4) 地域イベントの企画開催

アウトリーチの活動において、区民からの評価が高いアーティストを集め、NPO法人との協働による地域イベントを企画開催する。

(5) 区民イベントの企画開催

文化芸術講座から輩出した音楽、演劇、美術等のアーティストを一堂に会し、出演者、衣装や道具等、開催に必要なすべてを区内で調達したミュージカル等の区民イベントを企画開催する。

8 その他

6の支援事業については、文化庁長官あてに、本年4月7日付けで申請済みである。

別紙

- 1 支援措置の番号及び名称等
10803 文化芸術による創造のまち支援事業の活用
- 2 当該支援措置を受けようとする者
財団法人葛飾区文化国際財団
- 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取り組みの内容

かつしかARTブランド化計画の一環として、葛飾区文化国際財団は、「シンフォニーヒルズ少年少女合唱団」を創設するため、区広報誌と共に全戸配布される財団情報誌や財団ホームページ、区施設に配布したチラシでの募集により、区全域から素質のある少年少女35名を選出した。そして、作曲家の小林秀雄氏、ソプラノの嶺貞子氏を顧問とし、指導者にはバリトンの宮本益光氏、ソプラノの柏原美緒氏、ピアノの神田聖子氏と一流の音楽家を招くことで、音楽的に充実した純度の高いハイレベルな合唱の創造を目指す。

葛飾区文化会館（愛称：かつしかシンフォニーヒルズ）を拠点に、原則として毎週土曜日の午前中2時間を練習に充て、そのうち9回程度は公開練習とする。また、全日本ジュニア・コーラスフェスティバルへの参加をはじめ、区民が多く集う葛飾区民文化祭などでの発表等、芸術文化団体として認識される活動を行う。

「シンフォニーヒルズ少年少女合唱団」の活動を通して、区民の間に更なる文化芸術に関する需要と区民参加の気運を創出し、それに応える様々な講座を「かつしか文化工房」が積極的に企画開催する。

当合唱団をはじめ、「かつしか文化工房」の講座出身者が、区内各所でアウトリーチやNPO法人等との協働による地域コンサート等を行うことで、区内のみならず区外からも多くの人を葛飾区に集め、もって地域文化の創造と文化産業を創出し、葛飾区の地域に大きな活力を与える。

（具体的な事業）

- ・ 毎週土曜日午前中に定期練習（そのうち年9回程度は公開練習）
- ・ 平成16年6月 葛飾区合唱祭に参加
- ・ 平成16年8月 全日本ジュニア・コーラスフェスティバルに参加
- ・ 平成16年11月 葛飾区民文化祭合唱の部参加
- ・ 平成17年2月 第1回定期発表会開催